

2017自己評価シート 近江聖書学園 水口幼稚園

氏名

歳児

ぐみ

本年度教育目標(年主題)

心をつないで

担当係

評価項目	目標及び実績 本年度重点的に取り組むことが必要だと 思われること	方策(具体的な取り組み方)	取り組みに対する自己評価(5段階)			総合評価 (5段階)	考察									
			第1保育期	第2保育期	第3保育期											
教育目標教育 課程(方針)	子ども主体の保育。	子どもをよく観察し、興味、関心をよく知る。その上で保育者が遊びを提案し、環境をととのえ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.4	子どもと信頼関係を築き、理解を深め、自発性を引き出すよう工夫、実行した。自発的な言葉が出るように言葉かけも気を付けた。		
	子どもの自発性を引き出す保育。	自発活動、課題活動のつながりを大切にす	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4	子どもが興味を持っていることを遊びに取り入れるよう努めた。
	遊びに深まりのある保育。	保育者自身も(時には)しっかり遊びこむ。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4	保育者自身が真剣に遊ぶ大切さを感じた。
子どもとの関わり	子ども一人ひとりが自分らしくいられるよう、子どもの思いに寄り添う。	子ども一人ひとりをよく知り、みんなの中で大切にしていく。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.5	一人ひとりとじっくり関わることができた。自発活動の時間を長く取り、園外へ出かけたり、園内での遊びが深まるよう研究した。子どもたちの好きなこと、保育者の好きなことを活かした保育を展開することができた。		
	自発活動、課題活動の充実について考察、実行する。	園内研修の中で自発活動、課題活動について学び、実践する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4	
	子どもの興味、発達過程、年齢等に合わせたカリキュラムを組み、活動を展開	活動のねらいをしっかりとって展開する。保育者同士しっかりと話し合い、思いを共有する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4	
教育環境整備	子どもたち遊び、素材を研究し、子どもたちの要求に答える(本物を提供する)。	遊び方を研究し、保育者自らやってみる。(自然素材や身近な素材を生かした遊び等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.9	保育者が物が大切にする姿勢を見せていれば、自然と子どもにも伝わっていることを実感した。園全体を見るようところがけ、職員同士声を掛け合った。本物の提供という意味ではさらに研究、充実を図りたい。		
	冒険の森の活用、工夫する。	意識して全体を見る。気づいたことを共有する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			3.5	
	全体を見る目を養う。(後ろに目のある保育者になる)	元の場所に戻すということを徹底する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4	
	片付け、清掃等の基本的な整備を丁寧にする。(“自分の幼稚園”という自覚を持つ)		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4.4	
保護者との連携	保育方針をわかりやすく伝える。	保護者との対話を大切にし、思いを受け止め、共感の心で接する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.9	保護者に積極的に関わるよう努めた。クラスだよりやコラム、ノートや懇談で子どもたちの成長を伝えた。よく話す保護者、そうでもない保護者と偏りがちであることに気づいた。思いの行き違い等、伝わらず悩むことも多かった。		
	保護者との信頼関係を築く。	家庭環境を理解し、子育ての工夫を共に考える。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			3.8	
	保護者、保育者が連携して子育てに取り組む。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4.1	
組織運営 (クラスとして、全体として、他の保育者との関係)	複数担任制を活かす。	保育者それぞれが自分らしい保育をする。それを大切にしよう。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.5	担任で子どもの様子を話し合い、どう子どもと関わるべきか考え、共通理解のもと保育することができた。		
	職員全体、学年、クラスで、保育に関しての共通理解に努める。	報告・連絡・相談を徹底する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4.4	
特別支援教育	インクルージョン保育を実現させる。	みんな違っていいということを常に意識し保育する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.9	一緒に育つ大切さを子どもの姿から改めて学んだ。インクルージョンを常に意識して保育の場に立った。記憶がやや不十分であった。		
	子どもの観察、記録を行い、理解に努める。	輪から外れがちな子どもを中心とした保育を心掛ける。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			3.9	
研修	様々な研修に参加する。自分なりに学びを深める。	積極的に研修に参加する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	3.6	研修に参加したり、読書に努めたりして学び、保育に生かすことができた。園内での研修が充実していた。(火起こしやレスキュー)		
	研修で得たことを日々の保育に活かす。	学びを深め、実践する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			3.5	
子育て支援	保護者の思いに寄り添い、対応する。	子どものよいところを伝える。大切なことは園からも自信をもって伝えていく。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.1	まず保護者の思いを聞くことを大切に。保護者の思い、家庭環境等、受容することできたが、アドバイスまでに至らないこともあり、難しさを感じた。		
	親子の遊び場を提供する。	つくし親子ひろば(未就園児ひろば)を中心に、広く親子と関わりを持つ。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			3.8	
	子育てに必要な情報を発信する。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			3.8	
自己研鑽	保育者として自分に何が必要か考え、研鑽に努める。	健康に、生き生きと過ごす。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	4.2	自分のやりたいことが実現できるようになってきた。		
	保育者としての意識を持ち、責任を持って行動する。	積極的に出かける、人と出会う、本を読む、得意を深める、苦手を克服する…等	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			4.3	

※評価項目については別紙資料参照

来年度取り組むべき課題

子どもの“自発性”に注目して保育を展開したり、保育環境を整えたりしようとしてきた。来年度、自発活動の充実も含めて、さらに学びを深めて保育していきたい。保育者自身が好きなこと、得意なことを生かし遊びを追究していきたい。教材の研究をする。昨年から課題として学んでいた保護者との信頼関係について、一人ひとりに寄り添うことは難しいが、できるだけ会話を大切に保護者の思いを受け止めながら築いていきたい。保育の場面を見ていないことがあるという反省点がある。保育者の人数が多い分人任せになっていないか。“後ろに目のある保育者”を目指して、一人ひとり自覚し、努力する。

学校関係者の評価

時代の流れとともにインクルージョン教育の難しさを感じるが、そこを目指す水口幼稚園の姿勢に共感する。人と人の関わりの希薄化が言われる現代で、幼児教育の果たす役割はより重要なものとなる。親子関係の大切さを伝え、子どもはもちろん保護者も見守り、支えてほしい。これからも子ども同士、保護者同士、子ども・保護者と保育者、お互いに育ち合う関係を築いてほしい。職員が自己評価を行うことは良い。自己評価の結果を見て、職員同士の連携意識を感じる。これが保育につながっていくことを願う。